

## 懇談会で得た先生方のご意見等を一部ご紹介します



【座長】 東京農業大学  
名誉教授 山本 出氏

この懇談会に参加するたびに、MH冷水製造システムを利用した周年イチゴ栽培・陸上養殖の技術等が進展しており、それをいかに地域の活性化に結びつけ、また情報発信するか、さらには食品加工流通コンビナート構想に結びつけるための仕組みが構築されることを期待しています。



東海大学  
国際教育センター所長 内田裕久氏

今年、ドイツで開催された国際水素エネルギー会議で、西条市とサイクスの取り組みを紹介し、世界的にも非常に素晴らしいとの評価をいただきました。  
ぜひ、早期事業化に向けて、今後さらに発展することを期待しています。



東北大学  
名誉教授 新井邦夫氏

食料とエネルギーで自立した地域を形成するためには、バイオマス（生物資源）を徹底的に利用することが必要です。  
1次産業と2次産業の有機的な連携を強化し、化石燃料に依存しないシステムの構築をめざしており、将来、本構想にも寄与できるものと考えています。



千葉大学 環境健康フィールド科学センター  
客員教授 池田英男氏

夏においしいイチゴを収穫するには、まだまだ工夫が必要です。  
これまでの実績を踏まえて、トータルで栽培技術・環境・品種等を再検討することにより、事業化に向けて、10アールで10トンの収穫が実現するのではないかと思います。期待しています。



東海大学  
海洋学部水産学科 教授 秋山信彦氏

陸上養殖の利点は水を浄化して海や川に返せるため、環境にやさしいところです。さらに水産資源確保の観点からは、陸上で食料を増産できるメリットがあります。  
今後さらに研究開発し、発展させていくことができれば、いろんな漁種が陸上で養殖できるのではないかと期待しています。



近畿中国四国農業研究センター 中山間傾斜地域施設園芸チーム長 菅谷 博氏

今後も、これまでの課題解決に取り組みながらイチゴ、マスの研究開発を進め、また、事業終了後のことも見据えて、これからは、ソフト面でもマーケット等を意識しながら有効な手法等を考えていく必要があると思います。



独水産総合研究センター  
屋島栽培漁業センター 今井 正氏

西条市は省エネ・低環境負荷による温度調節が可能なMH冷水製造システムを利用し、閉鎖循環式飼育を研究開発していますが、これからは事業化に向けて、マーケティング調査等も同時に進め、消費者ニーズ等に柔軟に対応できるように、ソフト面の整備も必要だと思っています。



独産業技術総合研究所 四国センター  
産学官連携コーディネータ 勝村宗英氏

食品加工流通コンビナート構想の取り組みと情報を、全国に向けて情報発信することが重要です。また、成果は良いデータだけではなく、事業遂行上の矛盾点等も発信すべきです。これからは情報・データを、収集に来てもらえるような成果の発信も必要ではないかと思います。



大塚化学(株)  
技術顧問 梅津憲治氏

培地冷却によるイチゴの早期収穫についての取り組みは、非常に魅力あるものですが、まだ課題もあり研究開発が必要であると感じました。実用化に向け、これらの課題を克服するためにも、ハードとソフトの両面を組み合わせた取り組みを推進していくことが非常に重要であると思います。



HEARTの会（人間環境活性化研究会）  
副理事長（サイクス取締役） 山内尚隆氏

食品加工流通コンビナート構想は、今はまだ実験段階であり、日々、研究開発しながらプロジェクトを推進していく時期であると思われます。  
各先生方の意見を取り入れて、幅広い取り組みを行ってみたいはいかがでしょうか。

■問合せ 食品加工流通コンビナート構想推進プロジェクトチーム

○懇談会・セミナーについて 市庁舎本館ものづくり支援課 農商工連携係 TEL0897-52-1437

○コンビナート構想について 産業情報支援センター内 ものづくり支援課 産学官連携係 TEL0897-53-0010